

「ばかばかしくて話にならないような神様のご計画」

ルカ 1 : 26 ~ 38

I 導入部

おはようございます。2017年の12月、クリスマスの月を迎えました。町のあちらこちらでは、クリスマスの飾りがなされ、クリスマスソングが流れています。きれいな装飾やたのしい雰囲気、なんだかうれしくなってきます。2017年の最後の月、クリスマスの月を神様が共におられることを覚え、困難や苦しみを、痛みを理不尽なことを経験しようとも、私たちを救うために人間の世界に来て下さったイエス様が共にいて、この月も守り導いて下さることを信じて歩ませていただきたいと思います。

昨日は、青葉台駅前でキャロルが行われました。とても素晴らしい賛美でした。子どもたちも上手でした。岡田兄の音響の成果だと思いますが、神の霊に満たされた素晴らしい賛美、キャロルでした。神様を感じる良き時でした。

アドベント第一日曜日は、ルカによる福音書1章26節から38節を通して、「ばかばかしくて話にならないような神様のご計画」と題してお話し致します。

II 本論部

一、神様の確かな選び

救い主イエス様の誕生の預言は旧約聖書に記されています。救い主の誕生は神様のお心です。創世記3章には、人間の最初の罪、原罪が記されています。神様は人間が罪を犯した時から、人間の罪を赦すために、救い主の誕生を思い描かれていたのです。救い主イエス様は、ユダヤ民族の中の12部族のひとつ、ユダ部族の中から生まれることが預言され、ユダ部族の中で、ダビデの子孫から生まれると約束されていました。

旧約聖書、イザヤ書7章14節には、「それゆえ、わたしの主が御自ら、あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。」という預言の言葉があります。

新約聖書の最初、マタイによる福音書は、ユダヤ人のために書かれたと言われており、最初は系図から始められています。ユダヤ人は系図を重んじており、はっきりした系図を見ることで、確かな証拠としたのです。

マタイによる福音書1章16節には、「ヤコブはマリアの夫ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。」とあります。

旧約の預言に記され、救い主の系図に記されたマリアの所に天使ガブリエルが神様から遣わされたのです。神様がマリアを救い主の母として選ばれたのは、ユダヤ人の女性の中から誰でもいいというのではなく、旧約聖書に記されたとおりに、ユダヤ人であり、イス

ラエルの12部族の中のユダ部族に属し、ダビデの家系であるヨセフの妻であるマリアが選ばれたのです。マリアはナザレの村で、目立つこともなく、質素に、自分の人生を生きてきて、これからヨセフと結婚して家庭を作り、地味ながらも、片田舎の町で、二人で協力し合って生きていこうとしていたのです。

そのマリアの所に、天使ガブリエルが遣わされ、マリアの人生は、自分が計画した人生ではなく、神様の選びによる人生へと変わっていくのです。

私たちの人生は、私たちの人生というよりも、神様が私たちの人生を導いて下さるのです。神様なしの、自分中心の生き方ではなく、私たちの人生に神様が介入して下さるのです。その始まりがクリスマスなのです。

二、神様の権威の現れ

ダビデの子孫であるヨセフのいいなづけであったマリアに白羽の矢が当たりました。マリアが神様の目に留まりました。神様の救いのご計画は、神であるお方が人となって人間の世界に来ることです。そのためには、女性の体に宿る必要があったのです。

救い主であるお方は、完全に神であり、完全に人である必要があったのです。ですから、神によるとは、聖霊によってなされるということですから、35節には、「**聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。**」とある通りです。

このことは、神様の側では百も承知でしたが、マリアにとっては、寝耳に水でした。ですから、驚いたわけです。戸惑ったのです。胸騒ぎがしたのです。それは、日常生活をしていたマリアには、突然の事でした。

テレビの番組で、ドッキリ番組なるものがある、突然に多くのお金があなにとか、車があなたのものになるとか、ニセの警察が訪ねてきて、何かの容疑で逮捕されるとか、日常生活に突然の嬉しい事、悲しい事を仕掛けて、ビックリ、ドッキリさせて、実ほど、ネタをばらすというものです。日常生活に予想もしない事柄が起こると、人間はパニックに陥ります。人生が変わるのです。

マリアの人生も、平凡な人生から予想もしなかった、苦難と恐れが待ち受けていると感じられる人生が始まるのです。

31節では、「**あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。**」と一方的です。「**あなたは神様に選ばれました。救い主のお母さんになりますが、承諾していただけますか？**」と問うことはありません。「**あなたがいやなら、無理強いはしません。**」とマリアの都合や状況を聞くことはないのです。「**恐れるな**」と言っておきながら、「**あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。**」と身ごもることや男の子を産むこと、名前をイエスと名付けること、全てが命令なのです。一方的なのです。

何か、神様にあやつられるというか。神様の言うとおりに従うのみの人生。何か押し付けられたかのような、威圧感を感じる生き方を強いられるようなものなのです。

神様が人間の世界に介入されたということは、救い主のお母さんに選ばれたマリアにとっては、大変な出来事でした。自分に語られているのだけれども、何かよくわからない驚

くべき内容、「その子は偉大な人になり、いと高きかたの子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」と自分の思いや考えをはるかに超えた内容でした。

三、神様の介入には恐れがある

神様が、私たち人間を愛して、私たちの罪を赦すために考えられた救いのご計画は、神様にとっては、何か、全能の力で進めるといような神の力を示すというものではありませんでした。全能の力を駆使して、あっという間に人を救ってしまうこともできたでしょう。けれども、神様は私たち人間に神様が私たちをどれほどに愛しておられるかを示すために、そして、その愛の現れである救い主は、神であるだけではなく、人であるということが、私たち人間を救うためには必要であることを知っておられたのです。

ですから、神様の救いのご計画は、ナザレの田舎の若い女性を選び、その胎を借りて宿すといようなばかげた内容であり、乙女から子どもが生まれるといような、常識では考えられないような、バカげた話なのです。でも、神様はそれを真剣に、真摯に、ご自分でご計画され、進められるのです。

神様の言葉に、神様の人間の世界への介入に、マリアは戸惑い、恐れるのです。だからこそ、次の言葉が発せられるのです。37節を共に読みましょう。「**神にはできないことは何一つない。**」神様ですから一瞬にして、全ての人間を救うことは可能でしょう。また、人間の業としてではなく、マリアの胎を通して、神の霊に満たして救い主を誕生させることもできるのです。

神様は、人間の罪の性質をご存知です。神様を無視し、自己中心的で、どうしようもない人間の姿をご存知です。だから、この罪を解決するために、人であり、神であるお方として、マリアの胎を通して、聖霊による、神の力によって誕生するお方、イエス様が十字架で、人間の罪の身代わりに罰を受け、裁かれ、尊い血を流し、命を落とす、死ぬこと、命をささげることがどうしても必要だったのです。必要不可欠だったのです。

そのためにマリアが選ばれ、救いの計画が進められるのです。だからこそ、「**おめでとう。、恵まれた方。主があなたと共におられる。**」とガブリエルは語り掛けたのです。素晴らしい神のご計画が、マリアから始まるのです。その尊い役目を果たすためにマリアが選ばれ、立てられたので、「**おめでとう**」なのです。

マリアにとっては、状況がどうであれ、男の人を知らなくても、理解できなくても、納得できなくても、先行きが心配だらけでも、神様にとっても、マリアにとっても、「**おめでとう**」と言える出来事なのです。それは確かな事なのです。

私たちの人生にも、全く神様を知らなかった人生から、イエス・キリスト様を知る人生、イエス様が共におられる人生が始まるのです。そこには、確かに不安があります。心配があります。恐れがあります。納得できません。しかし、「**神にはできないことは何一つない。**」とマリアに語られたお方は、今日、私たちにも語られるのです。「**主があなたと共におられる。**」と語られるのです。そのように私たちに真実に語られる神様の言葉を信じて、受け取るうではありませんか。

Ⅲ結論部

マリアは言いました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」と。マリアは、神様が自分に語られた出来事が理解したから、納得したから、信じられるから、そう答えたのではありません。神様の一方的な、威圧的に語られる内容が、神様の語られたとおりに、自分の身になる。起こる、そのことを信じて、受け入れたのです。神様の驚くような、信じがたいお言葉が自分に身になることを神様に仕える奴隷のごとく、僕として、神様の言葉に従っていきます、と信仰を告白したのです。

私たちの信仰生活にも、自分の思いとは違う。理解できない。納得できない出来事が起こります。けれども、そのことが問題なのではなくて、そのような状況の中で、神様に信頼できないこと、信頼しないことが問題なのだと思うのです。「神にはできないことは何一つない。」と語られ、「主があなたと共におられる。」と語られる神様を信じて、信頼して、この週も、全てをお任せして歩んでまいりましょう。